旅の女冒険者たちがモンスターに喰われる話

ここはファンタジーの世界。ここでは人間とモンスターたちが同じ世界に住んでいる。だが食物連鎖のなかでモンスターは人間の上位に位置しており、モンスターから見れば人間などただのエサでしかなかった。幾度となく討伐隊が派遣されるも、だいたいはモンスターたちの餌食になることが多かった。なお、この世界の人間は若い雌しか存在していない。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【第１話】

村人の少女Ａと少女Ｂはその日、城下町へ薬草を売りに出

かけていた。ありがたいことに薬草はすべて売れ、２人の少女たちは手ぶらで帰路につく。最近村と城下町をつなぐ道に人喰いモンスターが現れたという話を耳にしたが、彼女たちも生活のため商売する必要があった。

その途中、少女Ａは尿意をもよおし少女Ｂから少し離れた茂みに入り、腰に巻いた紐をほどきしゃがみ込んだ。基本的にこの世界の住人はノーパンである。一般庶民の装備は布の服をベルト・帯・紐などを結んで固定するだけのシンプルなものが多かった。

なので御手洗いの際はその紐（もしくはベルトや帯）をほどくだけでいいので簡単に済ませられる。ただそのタイミングは布の服を羽織っているだけの状態なので、無防備といえば無防備ではある。

少女Ａは地面に向けて小便をしていく。その音を聞かれたくなかったので茂みに入ったのだが、その背後から彼女を見ている視線には気づかなかった。

視線の正体は大ガエル。体長２メートルほどのモンスターで、人１人ぐらい丸呑みにしてしまえる。美味そうなご馳

走の匂いを嗅ぎとっていた彼は隙だらけの獲物を発見し、ゆっくりと背後から接近していた。獲物は下半身丸出しで気持ち良さそうに放尿している。

ゆっくり気づかれないように近づき、獲物までの距離５メートルの地点まで到達すると、その大きな口を開け粘着質な舌を一気に伸ばした！舌は高速で撃ち出されるように伸び、少女Ａの肛門あたりに命中！粘着質な舌に少女の尻はピタッとくっつくと同時に、その衝撃で前のめりに倒れる。

次の瞬間に今度は猛烈な勢いで引っ張られ、勢いよく後方へ飛んでいく。その衝撃で布の服から少女の身体は抜けてしまい、全裸になってしまった。丸裸になった獲物の尻をバクッと喰らいつきキャッチする大ガエル。少女は何が起こったのか理解できない。強烈な咬合力で圧迫され、無数の鋭い歯を尻肉に突き刺され激痛がはしる。

大ガエルの食事が始まる。少女Ａを尻から丸呑みにしていく。少女は混乱のなかもがくことしか出来ず、尻からどんどん大ガエルの口の中、喉の奥へと押し込まれていく。尻から丸呑みされているため、呑み込まれていくにつれて強制的に開脚させられていく。ここに来てようやく悲鳴を上

げるも、もはや手遅れ。すでに大ガエルの口は少女の胸に歯を突き立てるところまで来ていた。

まだまだ未発達で大きいとは言えない乳房を、大ガエルの下顎がプニュッと潰している。そしてその数秒後には完全に丸呑みにされていた。喰われた丸裸の少女は大ガエルの胃の中で消化されていく。そしてご馳走にありつけた彼は至福感に包まれていく。

悲鳴を聞いた少女Ｂは慌てて少女Ａを捜すも見つからない。おそらく彼女がいるであろう場所には誰もいなかった。あったのは彼女が着ているはずの布の服だけ。それだけがそこに落ちていた。

少女Ｂは悟る。モンスターに襲われたのだ。戦慄がはしる。彼女を捜さなければという思いと、いやもう手遅れだ、それより早く逃げないと自分も喰われてしまう、という思いが交錯する。そして見つけてしまう。体長２メートルの大ガエルを。

彼女は大ガエルを見たことはあったが、改めてその大きさに圧倒され、身体が震えだす。もしすでに喰われてしまっているなら、すぐに助け出さないと消化され吸収されてしまう。だが、自分だけで助けることは絶望的であることも分かる。ここはもう逃げるしかない。幸い大ガエルとの距離は数メートルある。

相手を刺激しないようにそーっと後ずさっていく少女Ｂ。そして振り向いて一目散に駆け出そうとしたその時、視界に入ったのは・・・

グリズリー。体長３メートルはあろうかという巨大熊。この人喰いモンスターが直立してこちらを見ていた。すぐ正面、距離は５メートル。ヤバい・・・と思った次の瞬間、グリズリーは少女Ｂに飛びかかっていた。そして強靭な右手の薙ぎ払い。少女Ｂは吹っ飛ばされ宙を舞う。地面に落ちてからも勢い余ってゴロゴロと転がっていく。ようやく止まるも、彼女はもはや立ち上がることも出来ないほどの重傷を負っていた。

すぐに駆け寄ってきたグリズリーは、その鋭い爪と圧倒的な筋力で少女Ｂの布の服を破り捨て、食べやすいように丸裸にしていった。
なす術もない少女Ｂは生きたまま、簡単に食肉加工されていく。少女Ｂの身体は発育が良く食べ応えがありそうだ。

そして裸になった獲物の陰部に喰らいつく。両手で獲物の身体を押さえつけながら、喰らいついた陰部の肉を喰いちぎろうと引っ張る。すぐに無毛の陰部の肉は喰いちぎられ、クチャクチャと軽く咀嚼すると美味そうに呑み込んだ。

そして貪るように獲物の身体を喰いちぎっては軽く咀嚼し呑み込んでいった。陰部の肉がなくなると今度は大きな尻に喰らいつく。ボリューミーな尻肉を喰いちぎっては軽く咀嚼し呑み込んでいった。たっぷりと脂が乗っていて美味い。脂身の奥には大臀筋があって、これまた柔らかくも噛み応えがあった。

尻肉がなくなると腰骨を噛み砕き、奥にある膀胱や直腸や子宮を貪っていく。この時まだ少女Ｂには意識があった。生きたまま喰われていく恐怖はいかばかりか。

喰われる者の恐怖など知るよしもないグリズリーは、己の食欲を満たそうと少女Ｂの身体を貪り味わっていく。陰部と臀部を喰い尽くし腰の中も空洞にすると、次は太ももを内側、裏側、表側の順に食べていく。

下半身をここまで喰い尽くすと、次は大きな乳房に喰らいつく。柔らかいおっぱいは簡単に喰いちぎられ、呑み込まれていく。そしてすぐにおっぱいも喰い尽くす。

余談ではあるが、グリズリーが好んで食べる部位は獲物の陰部・臀部・その中間にある性器、その内側に位置する排泄系の臓器と体内の性器、そして太ももと乳房。

このモンスターに襲われた遺体が見つかるときはたいがいこの部位はすでに喰われてしまっていることが多い。しかしそれもあくまで見つかった場合は、に限る。捕食者がそこで満腹にならなければ食べ残しすら見つからない。

今回の彼の食事も、まだまだ終わらないようである。さすがにこの時にはもう生き絶えている少女の身体を貪りつづ

けるグリズリー。陽はやがて沈んでいく頃、ようやく彼の食事は終わった。その場に残ったのは、ビリビリに破り捨てられた布の服だけであった。

▬▬▬▬▬▬▬▬▬▬▬▬

【第２話】

２人の少女たちが行方不明となり、村人たちはこれがモンスターのしわざであることを察する。戦慄した村人たちは城へ向かい、モンスターを討伐してほしいと願い出るも門前払いされてしまった。たかだか村の少女が一人二人喰われたところで大したことない、とでも言わんばかりの対応に絶望する村人たち。

しかしそれも仕方のないことなのかも知れない。いざモンスター退治をしようものなら、数人の兵士ではこころもと

ない。数十人、場合によっては１００人を超える動員ともなろう。中途半端に兵士を送っては喰われてしまうだけである。

それでも村人たちは諦めるわけにはいかない。いつ村が襲撃されてしまうか分からず、怯える日々を過ごすことになる。王国軍の正規兵に頼れないとなれば・・・

ライードの酒場。この城下町にあるこの酒場には、多くの冒険者たちが集まる。戦士・武闘家・僧侶・魔法使い・商人から、賢者・勇者といったレアな者たち、さらには盗賊といった一見ダークな仕事をなりわいにしている者、なかには遊び人といった「それ職業じゃないだろ！」と言いたくなるような職業を名乗る者たちまでいた。

村人たちはモンスター退治を引き受けてくれる冒険者を捜した。だが引き受けてくれる者はなかなか現れない。それも無理もない。大した報酬を用意できないからである。モンスター退治ともなれば命懸けの仕事となるため、安価で引き受けるわけにはいかないのは当然。

が、それでもなんとか３人の冒険者たちが引き受けてくれた。女戦士・女僧侶・女魔法使いの３人。彼女たちはパーティを組んでおり、年齢は２０歳前後。

バストもヒップも人一倍大きく筋肉質な女戦士はスポーティな美女といった印象。兜から長い髪が垂れている。簡易的な鎧を身につけていたが、あまりに露出度が高く素肌の大部分をさらしていた。兜はしているため頭部はわりと防具面積があるが、身体は胸と陰部ぐらいしか防具がなく本当に簡易的な動きやすさ重視の装備であった。

同じくバストもヒップも大きいがウェストが細くスレンダーとも豊満とも言える女僧侶。ロングヘアで大人な美女といった印象。聖職者が身にまとう服を装備しており、戦闘補助を役割としているのが分かる。服のつくりは一般的な布の服と同じでノーパンである。

童顔な美少女といった印象の女魔法使いはショートカット。やや小柄ではあるが、バストとヒップはそれなりにある。彼女は遠距離攻撃特化なのであろう。防具という防具はつけておらず、魔女のようないでたちであった。彼女もまた露出度の高い服を着ている。

★つづきは本編にて★